編集を終えて～大学新聞編集部のいま

筑波大学新聞編集部の、現在(いま)の様子をご紹介したい。

ある日の夕方。三々五々集まってきた記者たちは、それまでの取材内容を編集長の原啓一郎(社会学類)に相談し始める。「大学周辺で起きた事件のネタがある。1面に入れてほしい」と話すのは事件・事故担当の鈴木拓也(人文学類)。昨年から大学周辺の警察(サツ)回りを続け、一般紙を凌駕するような特ダネを書いてきた。横で原稿を書くのは、つくば市役所担当の平嶋健人(社会学類)。2013年に市制50周年を迎える同市役所と、同年に開学40周年を迎える筑波大学を結ぶ「大ネタ」を書くのが夢だ。発行部数2万部余。筑波大学新聞は、学内はもとより、周辺地区に配られる「地域紙」としての役割も果たし始めている。

記者らの活動は多岐にわたる。

スポーツ担当の市原ひかり(社会工学類)は同年1月、国立競技場に赴き、全国準優勝を果たした筑波大学ラグビー部の生々しい表情を伝えた。写真撮影で活躍するのは韓国からの留学生、パク・ジョンヒョク(物理学類)。最近は日本語にも磨きがかかり、難しいコラムもこなす。「文学少女」と呼ばれる望月麗(比較文化学類)は筑波大学の北アフリカ植物に関する研究について同年春、1面で特ダネを放った。

原稿が書けたころに登場するのが倉沢美紀(国際総合学類)だ。出稿された数々の原稿には、文章力に優れる彼女の赤字が次々と入り、正確さを増していく。その横で待ち構えるのは副編集長の中島佳奈(人文学類)や、井口理恵子(同)。2人とも記事に定評がある一方で、見出しを作り、新聞を「組む」能力にたける。2人が組み終えた記事は、すでに「商品」となっている。

筑波大学新聞には、一般紙の「論説室」のような部署もある。

「記者の声」(オピニオン面)は、内外の諸問題を論じることができる欄だが、ここでは前編集長の松本果奈(人文学類)や前々編集長の西川大照(元社会学類、現信濃毎日新聞記者)、森田聡(元社会工学類、現会社員)らが活躍した。また二宮健太(社会学類)、鈴木かおる(比較文化学類)、梅野なぎさ(社会学類)、加藤茂行(地球学類)らの「ベテラン」も健筆をふるう。今後も中島光夫(情報科学類)、福住勇矢(物理学類)、小川玲(社会学類)、隅田脩平(応用理工学類)、長島一真(人文学類)、ジョン・ジニ(社会学類)、そして天野紗来(人文学類)や小串尚也(情報メディア創成学類)らが舌鋒鋭く「論」を展開することになるだろう。

変わり続ける学内外の様相。それらを彼ら記者たちは可能な限り網羅し、こつこつと書きつないでいく。筑波大学新聞は2013年春、新たに約10人の新人編集部員を迎えた。

◆

「新聞の自由とは、批判の自由」をモットーに、筑波大学新聞が創刊され約40年が経った。そして、伊藤純郎教授(筑波大学人文社会系)が2012年、本書のアイディアを示されて以来、頭に浮かび続けたのは、現在と同様、過去約40年にわたり新聞づくりに邁進してきた歴代の「記者」たちのことだった。

今回、原稿を寄せていただいた方々には、感謝の言葉もない。また長年、新聞のゲラ校正を担当してきた筑波大学広報室の皆様には、この場を借りて改めて深謝したい。記者たちに加え彼らがいなければ、これほど長い間、これほど正確な新聞を発行し続けることは不可能だっただろう。

2013年8月

筑波大学新聞代表／筑波大学教授
福原 直樹

編集を終えて～筑波大学のさらなる飛翔へ

1974（昭和49）年10月26日に創刊された「筑波大学新聞」は、2012（平成24）年5月14日に第300号が発行され、最新号である2013年7月16日発行号で通算308号を迎えました。

また、1973年10月1日付で開学した筑波大学は、2013年10月1日で開学40周年を迎えます。

本書は、「筑波大学新聞」発行300号と開学40周年をふまえ、「筑波大学新聞」の紙面分析を通じて、筑波大学40年の歴史を読み解いたものです。

具体的には、「筑波大学新聞」創刊号から第300号までのなかから、筑波大学の歴史を考えるうえで重要かつ不可欠と思われる紙面を、第1面を中心に100選び、歴代の筑波大学新聞代表・編集委員会委員長の諸先生や筑波大学新聞編集部員、そして筑波大学教員の皆様に、紙面に関する思い出を現在の心境をふまえ執筆していただくことで、改めて筑波大学40年の歴史を問い直したものです。

2012年9月、本書の刊行に関して福原直樹教授（筑波大学新聞編集代表）にご相談したところ、筑波大学新聞編集部からも全面的にご支援いただけることになりました。これを受け、私と福原教授が編者となって『筑波大学新聞で読む筑波大学の40年』の刊行を企画したところ、幸いにも筑波大学開学40＋101周年記念事業としてもお認めいただけることになりました。早速、原稿の執筆について、歴代の筑波大学新聞編集代表の諸先生や約150名におよぶ筑波大学新聞編集部員のみなさまに呼びかけましたところ、多くの方々からご賛同いただけることになりました。

御多忙のなか、素晴らしい原稿をお寄せいただいた鈴木博雄・森岡理右・天野勝文・中村紀一・荻野祥三・嵯峨寿の諸先生、および歴代の筑波大学新聞編集部員のみなさまに厚く感謝申し上げます。

また、永田恭介学長には、巻頭の「『筑波大学新聞で読む筑波大学の40年』刊行に寄せて」をご執筆いただきました。ここに改めて厚く御礼申し上げます。

編集作業にあたっては、多くの方々のご理解とご協力を得ました。筆者の方々との連絡調整を行っていただいた筑波大学広報室の木野内聡さん、吉田圭寿さん、小野未宇さん、出版社との連絡調整や校閲にご尽力いただいた筑波大学出版会の久保田一弘さん、安田百合さん、筑波大学新聞記事一覧表を作成していただいた冨所克哉さん（筑波大学大学院教育研究科修了）、素晴らしい装幀をデザインしてくださった宗田真悠さん（芸術専門学群卒業）、基本レイアウトを担当された長島一真さん（人文学類）、市原ひかりさん（社会工学類）には感謝の言葉もありません。

本書が、筑波大学40年の歩みを顧み、国立大学法人筑波大学のさらなる飛翔のための座右の書として活用されることを祈念します。

2013年8月

筑波大学人文社会系教授
伊藤 純郎